

交通安全に努めます！ —大崎交通少年団入退団式—

大崎小の4～6年の児童で組織する「大崎交通少年団」の入退団式が2月20日、同小体育館で行われました。

同小では、4～6年が交通少年団となり、交通安全の呼び掛けや地域の清掃活動に取り組んでおり、今回は卒業を控えた6年生8人が退団し、新年度に4年になる9人が入団しました。

式では、団旗の引き継ぎを行った後、退団する6年を代表して岡村周君が「団長としての活動で味わった達成感を、新団長にも味わってほしいです」とあいさつ。また、入団する3年を代表して山川良太君が「団員としての自覚を持ち、交通安全に努めます」とあいさつしました。最後に、新団長の井元晃平君を先頭に、団員全員で誓いの言葉を読み上げ、交通安全への誓いを新たにしました。



合同けいこでなぎなた強化

なぎなたの選手と指導者の強化育成を図る合同けいこ昇級試験が3月1日、武道館で行われました。

松浦市は、県内で唯一なぎなた部が松浦高校にあり、県からなぎなた競技の強化拠点に指定されています。

この日は、小中学生など22人が参加し、全日本なぎなた連盟常務理事で福岡県なぎなた連盟理事長の砂川邦子さんが指導。構えなどの基本動作を学んだ後、昇級試験を実施。参加者の内、なぎなた経験一年以上の19人が、日ごろの練習の成果を出して試験に臨み、技術の向上に努めました。



中学生がアルミ缶回収金で 車いすを寄贈

市内の7つの中学校が2月29日、武部病院（武部勝海院長）に車いす5台を寄贈しました。

市内の全中学校では平成10年から、アルミ缶を生徒や地域住民が持ち寄ったり清掃活動をして回収。翌年から収益金で市内の施設に毎年寄付を行っています。今年は、7校で約2,000^{キロ}のアルミ缶を回収しました。

この日は、各中学校の生徒代表7人が武部病院を訪れ、車いすを渡しました。生徒たちは、「回覧やポスターを作って呼びかけ、多くのアルミ缶を回収することができました。社会の役に立つように今後も続けていきたいです」などとあいさつ。武部周清事務長が「皆さんの善意の心を大切にしながら、大事に使わせてもらいます」とお礼を述べました。

子育てについて意見交換

ふれあい地域教育懇談会が2月27日、上志佐コミュニティセンターで開催されました。

子どもの心を見つめ、子どもと向き合うための意見交換を行おうと、上志佐地区青少年健全育成会議（松本衛会長）が毎年開催しています。

この日は、保護者や教育関係者、地域住民など約90人が参加し、「今、子どもたちとどう向き合ったらいいか」をテーマに開催。3人が、子育てについての事例発表を行った後、9班に分かれて班別協議を行いました。

班別協議では、「地域との関わりを多く持つことが大切」「日ごろから子どもの話をよく聞いてあげたい」などの意見が出ていました。



お兄さん、お姉さん、 卒業おめでとう

志佐保育園（大内恵美子園長）の園児 23 人が 3 月 14 日、志佐中学校（末永寛一校長）の 3 年生に花束などを贈りました。

保育実習などでお世話になった志佐中学校の 3 年生に、卒業祝いとお礼を兼ねて昨年からの花束などを贈っています。

この日は、園児が 3 グループに分かれて、卒業を控えた 3 年生の各教室に行き「お兄さん、お姉さん、ご卒業おめでとうございます。一緒に遊んでくれてありがとうございます」とあいさつ。代表者に花束を渡した後、園児が生徒一人一人に、首飾りをプレゼントし、生徒は「ありがとう」とうれしそうに受け取っていました。



ひと足早い春の香りを寄贈

九州電力平戸営業所（平野幸晴所長）が 2 月 18 日、市役所にスズラン 8 鉢を寄贈しました。

地域との共生を目指し、小さな花からも環境保護を訴えていこうと九州 3 県で毎年寄贈を実施。平戸営業所では今年、管内の 2 市 2 町の官公署や福祉施設など 21 団体へ 50 鉢を寄贈しました。



「通学合宿」でさまざまな体験

鷹島公民館講座の「通学合宿」が 2 月 27 日から 29 日までの 2 泊 3 日の日程で、鷹島開発総合センターで行われました。

小学生の自主性や社会性などの発達を促すことを目的に、毎年行っているものです。

今回は、鷹島小の 4 ～ 6 年の 14 人が参加。クリームシチューやチャーハンを作る夕食作りや、空き箱やペットボトルを使って貯金箱などを作る箱物工作、モンゴル村の温泉入浴など、さまざまな体験をしました。

植木で町内を華やかに

植木市が 3 月 12、13 日の 2 日間、鷹島町の阿翁浦フェリー発着所前などで行われました。

町内美化運動の一環として鷹島町観光協会が毎年開催しているものです。

ツツジや桜、梅など約 300 種類の色とりどりの植木が並び、両日とも多くの人出でにぎわいました。



家畜の霊を供養

と畜された家畜の霊を供養し、畜産農家の安全を祈願する「松浦地区畜魂祭」（ながさき西海農業協同組合主催、松本英達組合長）が 3 月 6 日、ながさき西海松浦営農経済センター構内の畜魂碑前で開催されました。

この日は、畜産農家や農協関係者約 70 人が出席。松本組合長が「原油や飼料価格が高騰する中、肉用牛の市場価格は上がっていません。5 年後に開催される全国和牛共進会に向かって、牛を中心とした農業振興を図りましょう」とあいさつし、家畜の霊を供養しました。

